

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

福島県安達郡大玉村

#### ○学校名

大玉村立玉井小学校

#### ○学校のURL

[http://www.ohtama.gr.fks.ed.jp/?page\\_id=44](http://www.ohtama.gr.fks.ed.jp/?page_id=44)

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 12学級 【特別支援学級】 2学級 【合計】 14学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】 273人（平成26年12月1日現在）  
（内訳：1学年43人、2学年49人、3学年45人、4学年49人、  
5学年42人、6学年45人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

- 自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子供
  - ・自ら考える子供
  - ・心豊かな子供
  - ・たくましい子供

##### 【人権教育に関する目標】

- (1) 人権の意義やその重要性についての正しい知識を身に付ける。
- (2) 日常生活の中で、人権上問題のある出来事に接した時に、直感的にその出来事はおかしい、と感じとる感性を身に付ける。
- (3) 日常生活において、人権への配慮がその態度や行動に現れるような人権感覚を身に付ける。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

- I 人権教育フィルターを意識した各教科・道徳の授業づくり
  - ・ 指導上における人権教育への配慮を明確にする。
- II 人権意識を高め居心地のよい人間関係をつくるための環境づくり
- III 地域素材（自然・文化・人材）の活用
  - ・ ふるさと（郷土愛）を育て、そこから自己存在感や他者理解につなげる教育活動

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### ◎ はじめに

(取組のきっかけ)

平成26年度、大玉村は福島県教育委員会から人権教育総合推進地域事業の委託を受けた。それに伴い、本校では現職教育の柱を「人権教育」とし、子供たちに「自分も大事、他人も大事」の心を育てていきたいと考え、実践を積み重ねている。

(取組のねらい)

人権意識を高める実践を進める上で、子供たちの実態を把握したいと考え、6月に4年生以上の児童全員に「人権に関わるアンケート」を実施した。その結果、本校児童は、

- 交友関係は良好で、仲良く遊ぶことはできている。
- 他者を肯定し、尊重することができている。また、そのようなことができるようになりたいという意欲ももっている。
- 受容・容認・共感（認められている・受け入れられている・理解されている）されているという意識が低い。
- 自己肯定感が低いという傾向があることがわかった。この結果を踏まえ、低かった内容項目についての子供の人権意識を高め、人権感覚を育てていく方向性を決定した。

(取組の内容)

#### I 人権教育フィルターを意識した各教科・道徳の授業づくり

##### 「授業実践における人権教育との関連ポイント」 **人権教育フィルター**

これは、日々の授業実践において、人権教育との関連を念頭に置き、人権教育との接点を明確にするために活用するものである。自分が行う授業において、『人権教育のここにポイントを当てて行っています。』ということを示すために用いる。「この授業のこの場面では自己有用感をもたせるために意図的な指名に心がけましたよ」という箇所については、指導案にI-2-①と記し、人権教育との関わりを示す。

#### I 自己存在感をもたせる支援の工夫

- 1 「授業に参加している」という実感をもたせる手立て
  - ① 学習内容や活動に応じた学習形態（座席、グループ等）の工夫
  - ② 学習内容や活動に応じた発問・応答の仕方の工夫
  - ③ 児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、それらを適宜組み入れる工夫
  - ④ 多様な視点から解決に結び付くような課題設定の工夫
  - ⑤ 児童生徒の学習意欲や習熟の度合いに応じて、課題（教材）を準備したり、ヒントカードなどを与えたりする工夫
  - ⑥ 結果だけでなく、学習の過程を認め、称賛する工夫
- 2 「自分が必要とされている」という実感をもたせる手立て（→言語活動の充実）
  - ① 意図的な指名等、一人一人が活躍する場の設定の工夫
  - ② 自由な発想や方法が認められたり、自己選択したりできる場の設定の工夫
  - ③ 互いの発言を最後まで聴く習慣や他の考えを大切にすることを身に付けさせる工夫

- ④ 協力して活動できる場の工夫
- ⑤ 互いの考えや方法のよさに気付かせる工夫

### 3 教師自身が一人一人を大切にする姿勢

- ① 児童生徒一人一人の名前をしっかりと呼ぶ
- ② 児童生徒一人一人の目を見て話す
- ③ 児童生徒一人一人の話をよく聴く
- ④ 承認・称賛・励ましの言葉をかける
- ⑤ 必要に応じて個に応じた手立てを講じる
- ⑥ 課題解決に困窮している場合、解決方法を導き出すための具体的な方法を示す

## II 共感的人間関係を育成する支援の工夫

### 1 「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気づくり

- ① 互いを尊重し合う人間関係づくりに努める
- ② 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりに努める
- ③ 教師の意図と異なる考えも大切にする
- ④ 「誰にでも失敗はある」、「誰もがよさや弱さをもっている」という認識に立つ

### 2 「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気づくり

- ① 他者の考えや表現のよさに気付き、学ぼうとする態度を育てる
- ② 自分の考えと異なる意見や思いを理解しようとする態度を育てる
- ③ 他者の気もちや立場を考えて自分の言動を選択し、行動する態度を育てる
- ④ 互いの役割や責任を認め合う態度を育てる

## III 自己選択・自己決定させる手立て

### 1 学習課題や計画を選択させる手立て

- ① 複数の学習課題から自分に合った課題を選択する機会の設定
- ② 学びの見通しをもつための学習計画を立てる際の支援

### 2 学習内容、学習教材を選択させる手立て

- ① 児童生徒の実態を踏まえた多様な教材・教具の準備と提供
- ② 児童生徒の習熟の度合いや興味・関心に応じて、教材・教具を選択できる場の設定

### 3 学習方法を選択させる手立て

- ① 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習方法の提示
- ② 課題解決のための情報や資料の準備とその活用方法についての助言
- ③ ワークシートやノート整理の仕方、学習内容のまとめ方についての助言

### 4 表現方法を選択させる手立て

- ① 児童生徒の実態を踏まえた多様な表現方法の提供と享受
- ② 自分なりの考えをまとめるためのノートの活用方法やワークシートの工夫
- ③ 相手や内容に応じた表現ができるよう、多様な表現スキルについての助言

### 5 学習形態や場を選択させる手立て

- ① 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習形態及び活動の場の設定
- ② 課題や学習活動・内容に基づいて学習方法や場所を選択する機会の設定

### 6 振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流させる手立て

- ① 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習成果の多様なまとめ方の工夫
- ② 自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返り、学び合う時間の設定

③ 他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場の工夫

文部科学省から出されている「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考に、大玉村の2園3校と教育委員会で組織される「おおたま学園」では、人権教育フィルターを作成している。人権教育フィルターは、日々の授業実践において、人権教育との関連を念頭に置き、人権教育との接点を明確にするために活用するものである。自分が行う授業において、「人権教育のここにポイントを当てて行っている」ということを示したり意識したりするために用いる。本校では、アンケートの結果と人権教育フィルターを関連付けると、人権教育フィルターの「Ⅰ 自己存在感をもたせる支援の工夫」「Ⅱ 共感的人間関係を育成する支援の工夫」に重点的に取り組む必要がある。そこで、日々の授業実践の中で、この授業では、これらの項目の何番目を意識して行うということを実践し積み重ねている。指導案には、「本指導上における人権教育への配慮」という項目を設け、下記のような表記をしている。

第〇学年〇組 算数科学習指導案

第〇学年〇組 教室  
指導者 〇〇〇〇

- 1 単元名 形も大きさも同じ図形を調べよう
- 2 単元について  
(教材観) ~文章記述  
(児童観)  
(指導観)

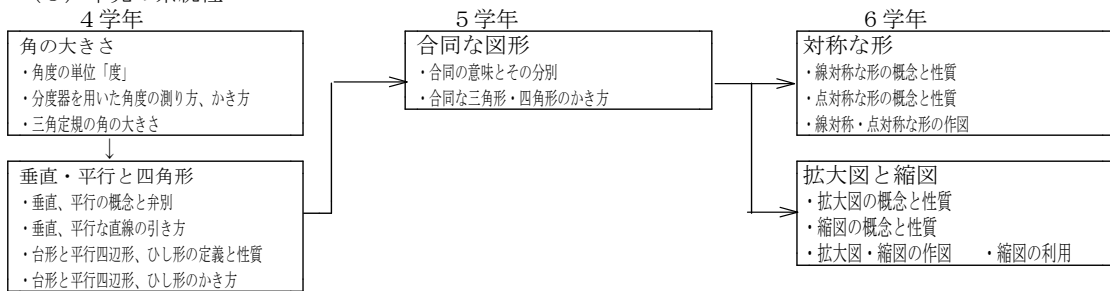
(1) 単元の目標

- 図形の合同の意味や合同な図形の性質について理解し、合同な図形をかくことを通して、平面図形についての理解を深める。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
形や大きさが同じ図形に関心を持ち、合同な図形の調べ方を工夫して考えようとしている。	対応する辺の長さや角の大きさに注目して、合同な図形の性質について考え、説明している。	合同な三角形や平行四辺形をかくことができる。	裏返してぴったり重なる場合も含めて、合同の意味を理解している。

(3) 単元の系統性



(4) 指導計画と評価規準 (次頁)

3 本指導上における人権教育への配慮

- 【手立て1】(Ⅰ-2-②) 自由な発想や方法が認められたり、自己選択したりできる場の設定の工夫  
三角形におけるコンパスを使った作図(3学年)、1辺と両端の角を測った作図(4学年)という既習事項から、三角形をかく方法は複数ありそうだという見通しをもたせる。また、できるだけ簡単な(手数が少ない)方法を探すために試行錯誤する過程を大切にす。
- 【手立て2】(Ⅱ-2-①) 他者の考えや表現のよさに気づき、学ぼうとする態度を育てる  
多様な考えを紹介し合いながら、互いの共通点に目を向けさせ、合同な三角形をかくのに必要な構成要素をまとめていくようにする。

人権フィルターの内容を、授業場面において具体的に考え記入する

4 本時のめあて

人権教育フィルターを意識した授業実践をすることで、「友達の意見や考えをよく聞く（傾聴・容認）」子供を育てたいと考える。真剣に聞いてもらっていることにより、受容（受け入れられている）、容認（認められている）感覚が高まり、安心感や自己肯定感が高まる。自分の考えや思いを大切にしてもらっている子供は、友達のことも大切にする。



## Ⅱ 人権意識を高め居心地のよい人間関係を作るための環境づくり

### (1) 学級掲示板

教室の掲示板に「気持ちのよい言葉づかい」「ふわふわことば」「心をホッとさせる言葉」を集めたコーナーを設置した。子供たちが考えた、または発した「みんな仲良くなれる、ハッピーになれる、うれしくなる」言葉を集めたものである。



そこに、教師の「心が温かくなるね」「笑顔になるね」などのコメントが添えられている。日常生活は、言葉であふれている。友達関係をよくしていくのも、自分の心を育てていくのも「言葉の力」は大きいものがある。よい言葉を知らせ、使わせることで、友達や自他を大切にする心を育てる。

### (2) 思いやりの木

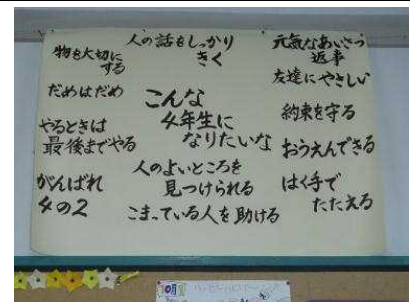
上級生や友達に親切にしてもらったことへの感謝の気持ちを相手に伝えたり、みんなに紹介したりすることで、より多くの人々への「思いやり」の気持ちをもつことのよさを伝える。



- ・ 感謝の気持ちをカードに記入する。
- ・ 昇降口の掲示板にカードを貼っていく。
- ・ 思いやり週間の期間に掲示する。
- ・ 放送で呼びかける。
- ・ 学習発表会当日は、体育館内に設置し、保護者に紹介する。

### (3) 人権コーナー

廊下に「人権コーナー」を設置した。ここに、人権作文と人権ポスター、人権標語を掲示し、たくさんのよい考えや様々な考えを知ること、自分の生き方や人間関係の築き方などの参考にさせる。



#### (4) Q-Uアンケートの実施

5月と12月に全校児童を対象としてQ-Uアンケートを実施し、学級集団の傾向と児童の満足度を把握し、よりよい学級集団となるような手立てや要支援群にいる児童への早急な対応の資料とする。年間2回実施することで、学級集団としての変容を捉え、手立ての検証と今後の対応について考える機会を設ける。

### Ⅲ 地域素材（自然・文化・人材）の活用

#### (1) 本揃田植え踊り（5年生）

5年生の総合的な学習の時間の学習では、村に伝わる「本揃田植え踊り」の伝承をしている。「本揃田植え踊り保存会」の協力を得て、口上や踊りを学び、農耕を中心とする大玉村の伝統を継承していくことで、ふるさとを大切にする心を育てる。



#### (2) 名倉山登山（3年生）

3年生の社会科の学習では、村の様子を知る学習があり、本校では、名倉山に登り高い所から、本校と村の様子や自分の住んでいるところを観察する。

山頂に登り、村一面に田んぼが広がっている様子を見ると、村の米生産が盛んに行われていることがわかる。家や地域の人々が一所懸命に育てている米に対して誇りを持ち、自分たちの自慢となる授業展開を工夫する。



#### (3) おおたま生き粋大学（1～4年生）

1年生から4年生の各教室に「おおたま生き粋大学生（お年寄り）」をお迎えして、子供たちと一緒に学習する。各教室の先生も、お年寄りの方と子供たちが一緒に学習できる内容を考え、楽しく触れ合う機会をつくる。この活動を通して、お年寄りに対する尊敬や思いやりの心が育って欲しいと考える。



#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

##### I 人権教育フィルターを意識した各教科・道徳の授業づくり

- 人権教育フィルターの項目を見てみると、授業を行う上で基本的なことが列挙されている。人権教育だからといって、特段変わったことをやる必要はなく、人権教育は、普段の教科学習や道徳・特別活動の中で十分に実践できるものである。

ふだんの授業の中で展開される「個に配慮する手立て」「個が生きる手立て」「生き生きと学び合う手立て」などの指導上の留意点が、教師の人権意識なのであることを確認することができた。

- 道徳・特別活動は、本質的に人権教育フィルター全領域に関わることを理解した。

##### II 人権意識を高め居心地のよい人間関係をつくるための環境づくり

- 言語環境を整えることはとても大切である。子供たちがいつでも目にすることができる場所に、「よい言葉」や「心温まる言葉」を掲示することで、子供自身がこの言葉を使ってみようという意識が芽生え始めてきた。「よい言葉」を発したときの担任の先生の称賛が、更に言語環境の高まりにつながってきている。

##### III 地域素材（自然・文化・人材）の活用

- ふるさとを知り、自然・文化・人を大切に思う心を育てることは、つまり自分自身を大切にすることにつながっている。本揃田植え踊りは、親子2代に渡って小学校で踊っている家族もあり、親から子へ踊り方を教え、親の踊りを超えたいと思う子もいた。本揃田植え踊りを通して、親子のふれあいや保存会の人々の関わりの機会が子供たちの心情を育てている。

#### 5. 実践事例についての評価

##### ○ 成果

- ・ 国語科、算数科、理科、道徳、特別活動において、7回の校内授業研究を実施した。教科のねらい達成のため指導過程を展開するのはもちろんではあるが、教師自身がどこで人権教育を意識するのかを明確にしたため、子供に育てたい人権意識をイメージすることができた。
- ・ 言語環境を整えることにより、よい言葉を使おうという意欲を高めることができた。常に、よい言葉が目に入り、教師が意識付けを図ることで、子供が発する言葉が少しずつよくなりつつある。
- ・ 地域の伝統を継承している小学生を、保存会や地域の人々は温かい目で見守ってくださり、その成果を学習発表会で披露することができた。伝統を継承することは、ふるさとに誇りもち愛することにつながり、そこに住む人々への関心をもつことや尊重することにつながっている。

##### ○ 今後の課題

- ・ 計画的継続的に人権教育を実施するためには、単元配当表などに各題材と人権教育（人権教育フィルター等）との関連を示すことが重要である。このことにより、人権教育を「点でとらえる」のではなく「線でとらえる」ことができ

るようになる。教育課程編成で共通理解を図り、段階的に改善を図る必要がある。

- 「人権に関するアンケート」やQ—Uアンケートを年間2回実施するので、その変容を分析し、実効的な手立てを講じていく必要がある。そのための時間確保は重要である。



## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 大玉村立玉井小学校

授業実践における人権教育との関連ポイント「人権教育フィルター」を意識した授業づくりと、居心地のよい人間関係を作るための環境づくりや、地域素材を活用した実践事例である。

特に教職員が高い人権意識をもって授業を行うために作成された「人権教育フィルター」には、大切なポイントが分かりやすく整理されている。指導案の中に、このポイントが明確に示されていることで、意識をもって授業を進めることができ、この積み重ねが子供たちの自己肯定感、さらには教職員の人権感覚の高まりにつながっている。これは授業のみならず、学校行事等も含め学校生活全般に活用できる内容である。今後のさらなる実践の深まりと、他の学校・地域への広がりが期待される。